

はまな

No. 557 平成 29 年 2 月

静岡県水産技術研究所浜名湖分場

〒431-0214

静岡県浜松市西区舞阪町弁天島 5005-3

TEL 053-592-0139 FAX 053-592-0906

<http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/hamanako>

e-mail: suigi-hamanako@pref.shizuoka.lg.jp

目 次

平成 28 年のアサリ漁を振り返る	・・・1
平成 28 年の浜名湖漁獲統計	・・・3
大きなウナギを使って蒲焼を	・・・5
ヒョウモンダコに注意しましょう	・・・6
体験学習施設「ウォット」より	・・・6

浜名湖における平成 28 年のアサリ漁獲量は 1,901 トン、対前年比 55% となりました（浜名漁業協同組合集計）。本稿では、28 年の漁模様を振り返ってみたいと思います。

1 漁獲等の動向

（1）年間漁獲量と採貝連合会員数

昭和 57 年以降の年間漁獲量と採貝連合会員数の推移を図 1 に示しました。平成 28 年の漁獲量は、統計史上 2 番目に低い、厳しい結果となりました。会員数は平成 15 年以降増加傾向にあり、22 年以降は 600 人以上で推移していましたが、26 年には 600 人を下回り、28 年は 592 人となりました。

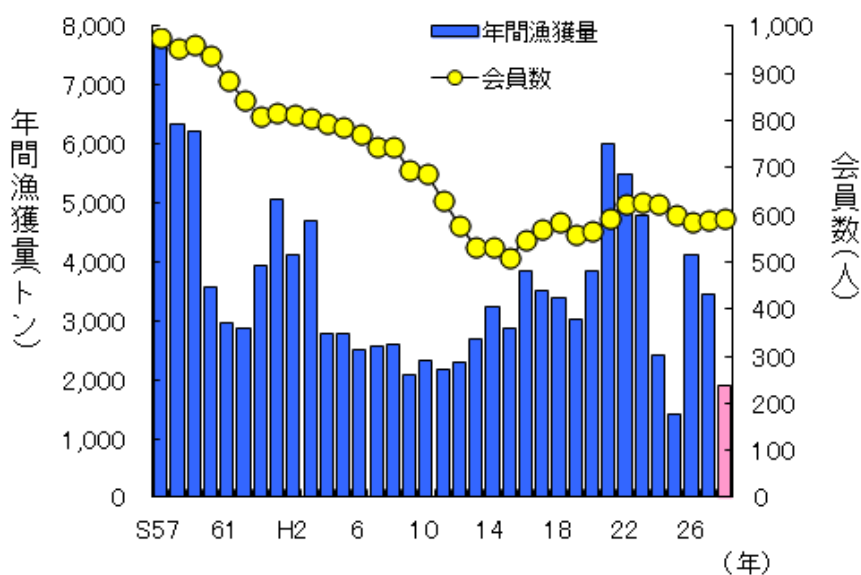


図 1 アサリの年間漁獲量と採貝連合会員数の推移

（2）月間漁獲量

平成 28 年の月間漁獲量の推移を図 2 に示しました。年及び過去 10 年間の平均月間漁獲量を下回りました。月間漁獲量は、28 ～ 278 トンで推移し、全ての月で前

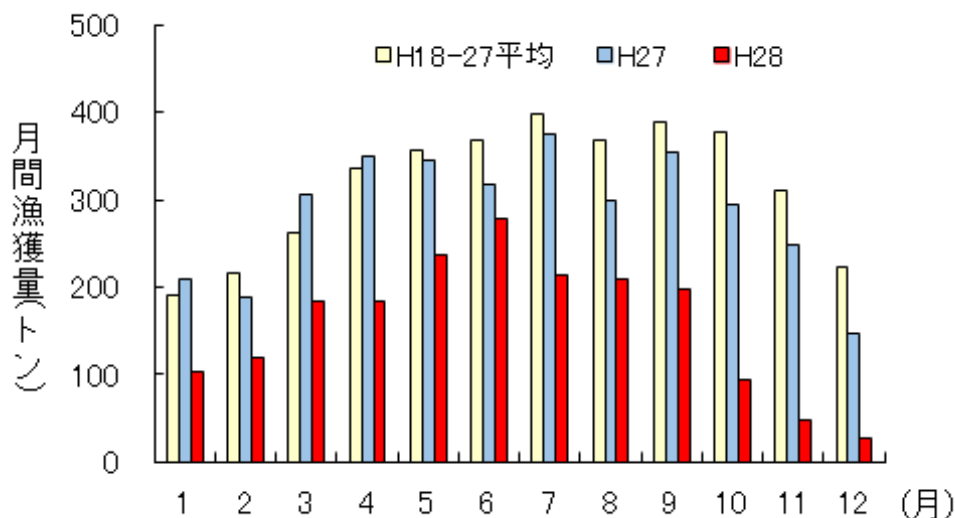


図 2 アサリの月間漁獲量の推移

2 単価等の動向

(1) 年間漁獲金額と年平均単価

昭和 57 年以降の年間漁獲金額と年平均単価の推移を図 3 に示しました。平成 28 年の漁獲金額は 7.8 億円で、過去 10 年間の平均金額の 13.7 億円を下回る結果

となりました。平成 28 年の年平均単価は 410 円/kg で、過去 10 年間の平均単価 362 円/kg を上回りました。

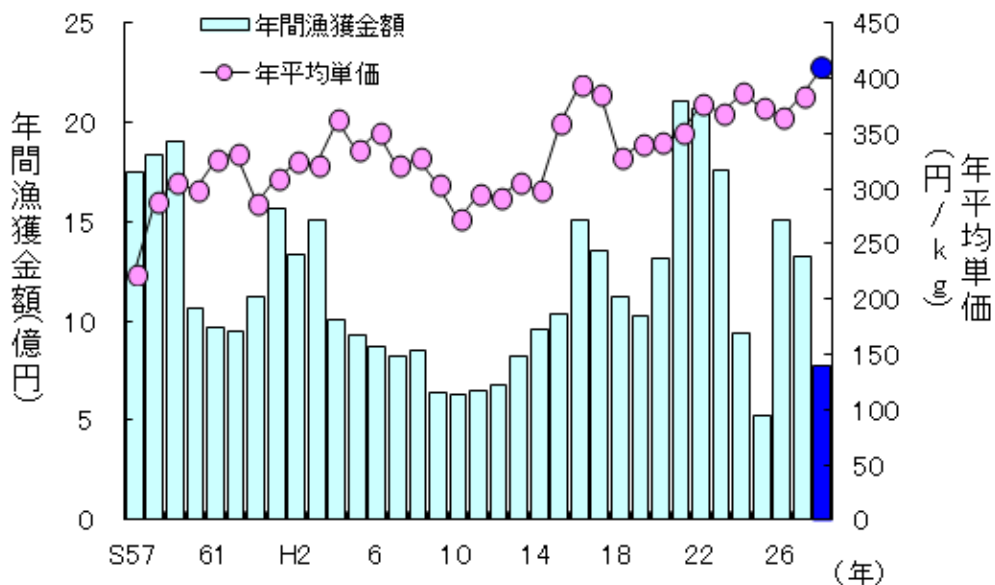


図 3 アサリの年間漁獲金額と年平均単価の推移

(2) 月別平均単価

月別平均単価の推移を図 4 に示しました。平成 28 年の月別平均単価は、402 ～ 415 円/kg で推移し、全ての月で前年及び過去 10 年間の平均月別単価を上回りました。

の月で前年及び過去 10 年間の平均月別単価を上回りました。

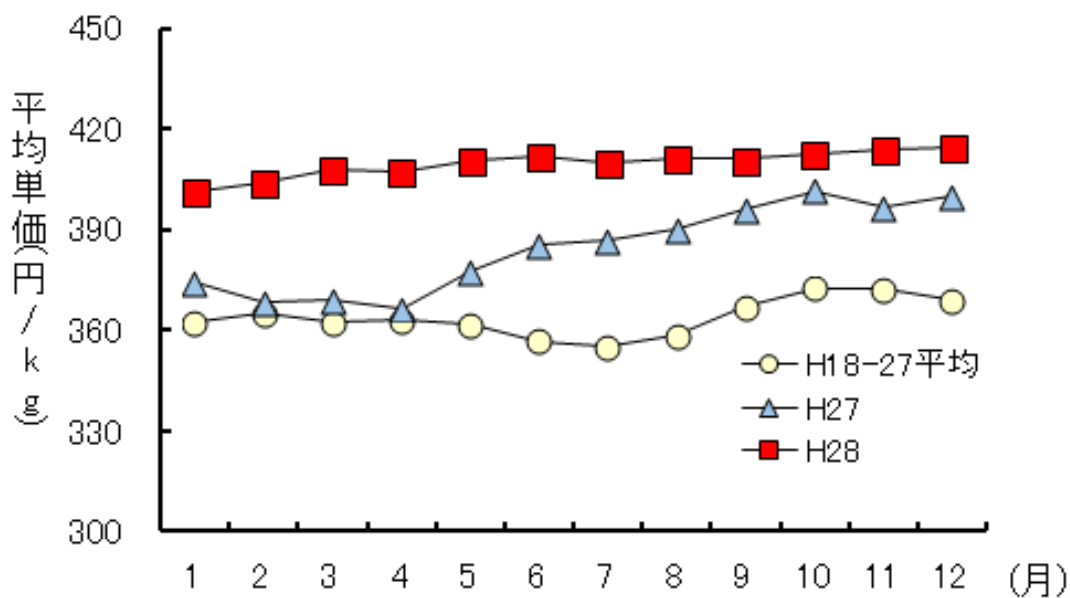


図 4 アサリの月別平均単価の推移

3 今後のアサリ資源の管理について

このように、低調であった平成 28 年のアサリの漁獲量ですが、特に 10 月から減少しました。要因の 1 つとして、春～夏季に繁茂したアオサの腐敗による底質環境の悪化で多くのアサリが斃死し、それによって資源が減少したためと推測しています。

浜名漁業協同組合採貝連合会（以下、採貝連合会）ではアサリ資源を守るため、平成 24 年から 1 人 1 日当たりの漁獲量制限をそれまでの 110kg から 66kg に強化しています。また、平成 25 年度から実施しているアサ

リの人工種苗生産や天然採苗（本誌 556 号参照）を継続して実施しているほか、平成 28 年度からは、アサリの生息している湖底に網を張ることで、クロダイなどの被害を防ぐ取組を開始しました（本誌 556 号参照）。これらの活動は、アサリ資源の安定的な利用を目指す上でとても重要な取組であり、現在、採貝連合会ではこれらの取組の継続と今後のアオサ対策について話し合いをしています。水産技術研究所では、採貝連合会の取組のサポートやアサリ資源を回復させる研究を継続し、連合会とともにアサリ資源の安定的な利用を目指していきます。

平成 28 年の浜名湖漁獲統計

吉田 彰

浜名漁協の資料を基に、平成 28 年の浜名湖内における漁業種別（養殖を除く）の漁獲量を図 1 に、漁獲金額を図 2 に示しました。すべての漁業種別漁獲量を合算した総漁獲量は 2,049 トンで、前年の約 58% となりました。その内訳は、採貝が最も多く 1,901 トン（92.8%）、次いで袋網が 116 トン（5.6%）、三枚刺網 18 トン（0.9%）と続き、この順位は前年と同じでした。なお、その他 14 トン（0.7%）には、うなぎつぼ、メッコ網などが含まれます。一方、総漁獲金額は 1,627 百万円で前年の約 83% となりました。その内訳は、採貝が最も多く 779 百万円（47.9%）、次いで漁獲物単価の高いメッコ網 627 百万円（38.5%）、袋網 167 百万円（10.2%）、うなぎつぼ 23 百万円（1.4%）、三枚刺網 21 百万円（1.3%）となり、メッコ網及び袋網では前年を上回りました。

浜名湖で漁獲される主要 30 魚種（銘柄）について、支所別の漁獲量を表 1 に、月別の漁獲量を表 2 に示しました。なお、入出支所の水揚げは平成 18 年 4 月から鷺津支所に、気賀支所、村櫛支所、白洲支所の水揚げは平成 22 年 1 月から雄踏支所に、それぞれ含めています。

アサリを除く 29 魚種の総漁獲量は前年比 119% の 138 トン、アサリが前年比 55% の 1,901 トンとなり（詳細は本誌「平成 28 年のアサリ漁期を振り返る」を参照）、全体では前年比 57% の 2,039 トンとなりました。前年より増加した魚種は 19 種で、このうち増加量の大きかった魚種は、タコ 6.1 トン、コノシロ 4.9 トン、クマエビ（アカアシ）3.1 トン、ノコギリガザミ 2.5 トン、クルマエビ 1.1 トンでした。このうちクルマエビは、近年減少が続いていましたが（前年は昭和 40 年以降最低の 2.9 トン）、本年は 5～6 月の漁獲が 1 トンを超え（表 2）、若干の回復が見られました。一方、減少量の大きかった魚種は、ウナギ 3.5 トン、クロダイ 3.0 トン、キビレ 0.9 トンでした。

平成 28 年の湖内漁業は、アサリの漁獲減を背景に前年に比べ減収となりました。アサリの資源管理（本誌「平成 28 年のアサリ漁期を振り返る」を参照）をはじめ、クルマエビの栽培漁業、ウナギの資源管理などを通じ、今後とも持続的な湖内漁業の推進を支援していきたいと思っています。

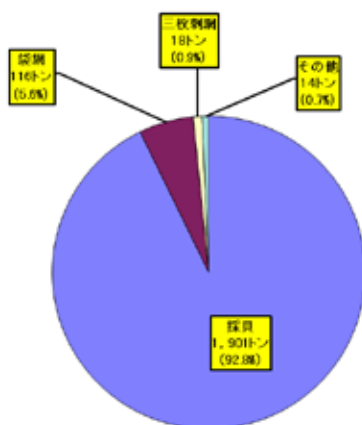


図1 平成 28 年浜名湖における漁業種類別の漁獲量
(総漁獲量 2,049 トン)

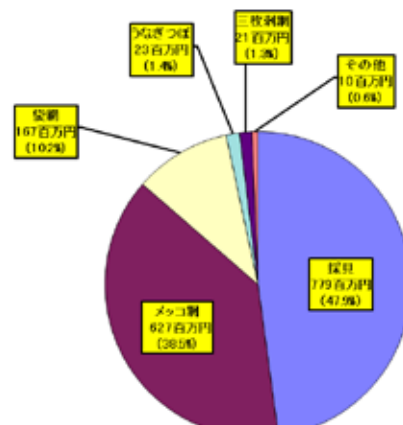


図2 平成 28 年浜名湖における漁業種類別の漁獲金額
(総漁獲金額 1,958 百万円)

表 1 平成 28 年浜名湖における主要 30 種の魚種別、支所別漁獲量 (kg)

	舞 阪	新 居	鷺 津	雄 踏	合 計	前年(27年)	28年-27年	28年/27年
コノシロ	0	0	12,970	11,473	24,443	19,554	4,889	125%
マイワシ	0	0	1,228	0	1,228	384	844	320%
ウナギ	8	40	2,212	5,542	7,802	11,313	▲ 3,511	69%
シラスウナギ	111	449	50	188	798	555	243	144%
アナゴ	0	7	504	540	1,051	1,675	▲ 624	63%
サヨリ	0	0	28	539	567	446	121	127%
ボラ	0	0	749	290	1,039	1,881	▲ 842	55%
カマス	0	0	731	99	830	1,245	▲ 415	67%
サバ	0	5	170	2	177	61	116	290%
マアジ	0	28	1,272	171	1,471	924	547	159%
ブリ類	0	0	129	0	129	25	104	516%
スズキ	0	61	5,987	18,815	24,863	24,245	618	103%
キス	0	0	260	62	322	175	147	184%
クロダイ	0	0	1,623	2,341	3,964	6,916	▲ 2,952	57%
キビレ	0	0	791	443	1,234	2,103	▲ 869	59%
ハゼ(マハゼ)	0	0	3,578	2,519	6,097	5,880	217	104%
コチ	0	3	1,183	435	1,621	1,698	▲ 77	95%
アイゴ	0	0	1,438	25	1,463	2,294	▲ 831	64%
カレイ類	0	1	2,701	1,215	3,917	3,239	678	121%
カワハギ	0	0	708	36	744	236	508	315%
雑魚	0	40	8,052	3,501	11,593	6,019	5,574	193%
クルマエビ	76	0	796	3,060	3,932	2,859	1,073	138%
クマエビ	0	0	1,712	2,740	4,452	1,370	3,082	325%
カニ(ガザミ)	0	0	914	1,435	2,349	2,465	▲ 116	95%
ノギリガザミ	0	0	601	5,013	5,614	3,113	2,501	180%
雑エビ	0	0	2,204	3,773	5,977	5,266	711	114%
雑カニ	0	8	6,008	4,261	10,277	5,838	4,439	176%
イカ類	0	0	663	294	957	1,083	▲ 126	88%
タコ	0	63	6,705	2,395	9,163	3,040	6,123	301%
小 計	195	705	65,967	71,207	138,074	115,902	22,172	119%
アサリ	888,675	280,016	358,293	374,179	1,901,163	3,436,580	▲ 1,535,417	55%
合 計	888,870	280,721	424,260	445,386	2,039,237	3,552,482	▲ 1,513,245	57%

表 2 平成 28 年浜名湖における主要 30 種の魚種別、月別漁獲量 (kg)

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
コノシロ	115	0	0	3,293	1,938	2,351	3,874	3,849	3,743	2,042	2,064	1,174
マイワシ	0	0	0	484	140	47	210	200	19	22	43	63
ウナギ	82	3	0	356	812	788	1,157	766	1,103	879	1,287	569
シラスウナギ	80	261	151	32	0	0	0	0	0	0	0	274
アナゴ	3	0	0	133	236	195	138	65	45	84	99	53
サヨリ	0	0	0	350	57	0	0	0	0	11	37	112
ボラ	109	45	33	64	48	26	32	104	91	145	93	249
カマス	0	0	0	0	14	0	1	128	201	269	186	31
サバ	2	0	0	2	3	40	58	25	15	11	16	5
マアジ	0	0	0	0	252	491	153	209	118	21	55	172
ブリ類	0	0	0	0	0	0	27	76	1	25	0	0
スズキ	211	0	95	1,502	1,938	1,856	2,917	4,721	3,236	2,945	4,101	1,341
キス	0	0	0	0	2	1	21	36	45	60	131	26
クロダイ	26	0	0	309	286	264	214	295	391	1,082	793	304
キビレ	7	0	0	48	102	115	237	318	193	97	80	37
ハゼ(マハゼ)	362	0	0	296	30	167	527	601	1,082	547	855	1,630
コチ	6	0	0	57	117	85	292	250	387	168	164	95
アイゴ	0	0	0	79	316	189	251	264	224	69	70	1
カレイ類	109	0	0	189	579	280	307	160	497	710	591	495
カワハギ	0	0	0	0	0	0	0	6	219	233	165	121
雑魚	172	24	0	630	1,131	1,455	1,697	1,538	1,473	828	1,307	1,338
クルマエビ	0	0	0	40	1,031	1,271	891	322	174	98	91	14
クマエビ	0	0	0	0	0	0	2	1,564	2,366	443	77	0
カニ(ガザミ)	0	0	0	91	225	243	254	357	321	371	310	177
ノギリガザミ	4	0	0	27	110	107	844	705	1,587	547	1,376	307
雑エビ	0	0	0	20	235	1,613	1,448	285	1,300	874	194	8
雑カニ	1	0	0	357	784	1,224	1,482	1,798	1,798	1,400	939	494
イカ類	0	0	0	21	181	140	146	116	294	40	11	8
タコ	17	0	0	50	238	1,842	3,011	1,346	843	722	782	312
小 計	1,306	333	279	8,430	10,805	14,790	20,191	20,104	21,766	14,743	15,917	9,410
アサリ	103,127	120,624	184,044	183,678	237,595	278,133	215,267	210,408	199,100	93,717	47,820	27,650
合 計	104,433	120,957	184,323	192,108	248,400	292,923	235,458	230,512	220,866	108,460	63,737	37,060

大きなウナギを使って蒲焼を

水越 麻仁

近年、ニホンウナギの資源保護が求められている中で、養鰻業に用いるシラスウナギの池入れ量に制限がされました。そこで、静岡県では養殖生産量を維持・確保していくため、大型ウナギ（300～500g程度の養殖ニホンウナギ）の有効活用に関する取組を実施しています（はまな 555号参照）。

今回、県西部の鰻蒲焼店から、大型ウナギを使った蒲焼の提供を検討したいとの相談を受け、450g前後の大型ウナギを用いて、蒲焼にして、分場職員による評価を行ってみました。蒲焼は、職人の方が、大型ウナギを割

いて開きにし、頭から尾にかけて数箇所包丁を入れる骨切等の処理を行い、炭火で時間をかけて焼いたものです。職員からは、骨はほとんど気にならないが、皮の口当たりが気になるとの意見が多くありました。また、肉厚で大きいことから、通常の井やお重の形態で提供することについては疑問も出ました。

今後は、食感や、料理として提供する方法などについて、検討が必要ようです。近いうちに、大型ウナギの蒲焼料理がメニューにのるよう期待したいと思います。



職人による大型ウナギの串打ち（左）と焼き（右）の様子



大型ウナギと通常のウナギの比較

（左）捌いたところ

（右）蒲焼にしたところ

ヒョウモンダコに注意しましょう

今中 園実

ヒョウモンダコ（写真）は、全長 10cm くらいの小さなタコで、日本では房総半島から南西諸島まで分布するとされています。主に熱帯・亜熱帯地方に分布する種類で、サンゴ礁域でよく見られますが、本州の沿岸域でもまれに見られることがあり、浜名湖沿岸でもこれまでに何回か確認されています。

見た目は小さくてかわいいタコで、青色の美しい斑点が全身に浮き出ていることもあります。見つけるとつい触りたくなるかもしれませんが、実はこの美しい斑点は、刺激を受けたときの警戒色なのです。このタコは体内に猛毒を持っており、噛まれると傷口から毒が注入されてしまいます。本来は餌を獲るときに使われる毒なのですが、フグ毒と同じテトロドトキシンという毒で、噛めると全身麻痺などを起こし、死亡することもあります。

ヒョウモンダコは、本来はおとなしい性格で、積極的に人に噛みつくことはないようです。漁業や磯遊びの際に見かけたときは、触らないように注意しましょう。

<参考文献>

白井祥平「有害有毒海中動物図鑑」 マリン企画（1984）



体験学習施設「ウオット」より

★冬の風物詩「キアンコウ」を展示中です★

浜名漁協雄踏支所で頂いたキアンコウを、1月17日（火）より、館内1階のユニット水槽で展示中です。

キアンコウは水深約25～500メートルの海底に棲み、主に魚類や甲殻類を食べています。古くから「あんこう鍋」などの料理として親しまれており、冬の風物詩として代表的な魚です。ぜひ来館してご覧下さい。

（ウオット職員 杉村 達樹）



★★ イベント案内 ★★

○ドッキドキ！うらがわ探検ツアー（要予約）

2月25日（土）10:00～11:00（定員20名）

普段は見られないウオットの裏側をご案内します。

○お魚さんが待っている！エサやり体験（要予約）

3月4日（土）10:00～12:00（定員15名）

お魚たちにあげるエサ作りとエサやりをします。

○「ウオットフォトコンテスト2017」

2月28日（火）まで

ウオットで撮影した生き物などの写真をTwitterに投稿してください。

<参加方法>

『@uxotto』をフォロー。

写真に『#ウオットフォトコンテスト』をつけて投稿。

最優秀賞に選ばれた5名様にはウオットオリジナルグッズをプレゼントします。

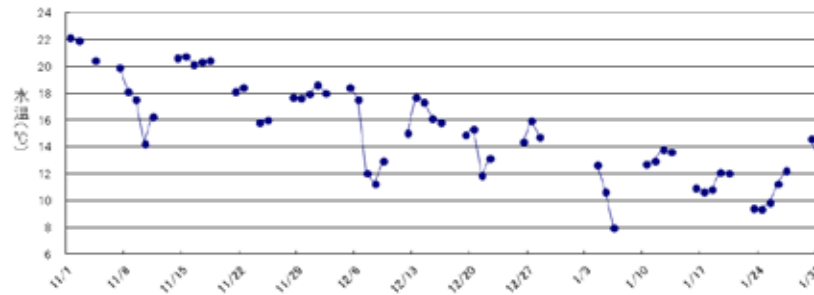
○おんな城主 直虎を探せ！ 3月31日（金）まで

ウオットの水槽に隠れた「トラ」の名前をもつ魚を探すゲームです。館内で配布しているワークシートに答えを書いてみましょう♪

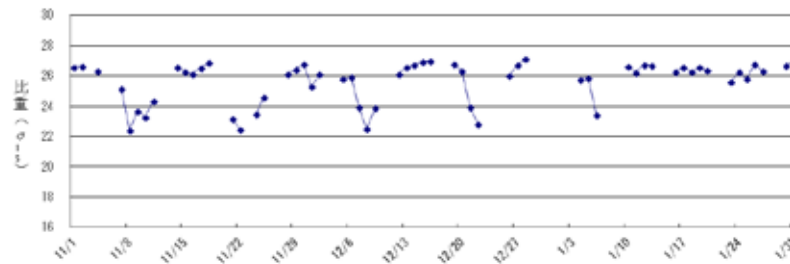
*本コーナーに関するお問い合わせ等は、ウオット
(053-592-2880)にお尋ね下さい。

弁天島の水温・比重（平成 28 年 11 ～ 29 年 1 月）

水温の変動



比重の変動



水温・比重の平均値

水温(°C)	11月				12月				1月			
	上旬	中旬	下旬	月平均	上旬	中旬	下旬	月平均	上旬	中旬	下旬	月平均
2016～2017年	19.3	19.8	17.5	18.8	15.6	16.1	14.1	15.3	11.1	12.2	11.4	11.6
平年 (過去10年平均)	19.7	17.7	17.0	18.1	15.7	13.8	13.9	14.5	12.3	11.8	12.3	12.1

比重(ρ15)	11月				12月				1月			
	上旬	中旬	下旬	月平均	上旬	中旬	下旬	月平均	上旬	中旬	下旬	月平均
2016～2017年	24.9	26.1	24.7	25.2	24.8	26.6	25.3	25.6	25.4	26.5	26.3	26.1
平年 (過去10年平均)	23.5	24.0	24.0	23.8	24.1	24.3	24.8	24.4	25.8	25.9	26.0	25.9

分 場 日 誌（平成 28 年 11 ～ 29 年 1 月）

28 年 11 月

- 7 日 薬剤耐性アクションプラン説明会（名古屋）
- 11 日 農林水産実りのフェスティバル（東京）
- 15 日 定点観測（浜名湖）
- 25 日 水産研究発表会（焼津）
- 29～30 日 内水面関係研究推進会議（東京）
- 30 日 しずおか農林水産物認証制度定期監査（吉田町）

28 年 12 月

- 6 日 定点観測（浜名湖）
- 6～7 日 二枚貝飼育技術研究会（横浜）
- 7～8 日 魚病症例研究会（伊勢市）
- 12 日 貝毒監視連絡会（当場）
- 14 日 浜名湖袋網実行会（舞阪）

15～16 日 太平洋中海域トラフグ研究会（名古屋）

19～20 日 中央ブロック水産関係

研究開発推進会議（横浜）

29 年 1 月

- 11 日 定点観測（浜名湖）
- 13 日 県漁業士役員会（静岡）
- 17～19 日 北海道あさり勉強会（北海道）
- 18 日 浜名湖水産物活性化部会（舞阪）
- 23 日 アルゼンチンからの研修生受入（当場）
- 26 日 移動知事室（気賀）
- 26～27 日 魚病講習会（磐田、浜松、吉田町）
- 東日本クルマエビ類担当者会議（東京）

表紙の写真： 浜名湖産カキの選別作業（平成 29 年 2 月 1 日：舞阪）